

川 棚 町 橋 梁 長 寿 命 化 修 繕 計 画

(橋長 1.5m以上)

平成 22 年 3 月

川 棚 町 建 設 課

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

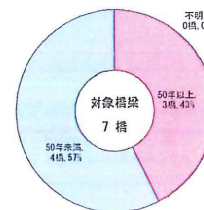
川棚町で今年度長寿命化修繕計画の対象となる橋長15m以上の橋梁は、全7橋です。現在、供用年数50年以上の橋梁は、ありませんが、30年後には3橋(43%)になります。

今後は橋梁の高齢化が進む対象橋梁に対して、従来の事後保全型の維持管理を継続した場合、維持管理コストが増加することになり、厳しい予算制約の中で安全性・信頼性の確保のための適切な維持管理を続けることが困難となる恐れがあります。

2) 目的

今後、高齢化する橋梁の維持・修繕費用の増大に対応するため、従来の対症療法的な修繕及び架替えから予防的な修繕および長寿命化修繕計画に基づく架替えへと円滑な政策転換を図るとともに、橋梁の長寿命化並びに橋梁の修繕・架替えに係わる費用の縮減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保することを目的とします。

2009年度現在
架設50年以上
経た橋梁なし



30年後 (2039年)

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

		合計
全管理橋梁数		96
	うち計画の対象橋梁数	7
	うちこれまでの計画策定橋梁数	0
	うち H21 年度計画策定橋梁数	7
○ 長寿命化修繕計画の対象：橋長 15m以上のすべての橋梁		

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、長崎県橋梁マニュアルに基づいて概略点検を行い、健全度に応じた点検頻度を設定します。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、通常点検（道路パトロール）を実施するとともに、清掃や土砂詰まりの除去等、比較的に対応が容易なものについては、日常の維持作業により措置します。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本方針とともに、予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係わる事業費の大規模化を回避し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

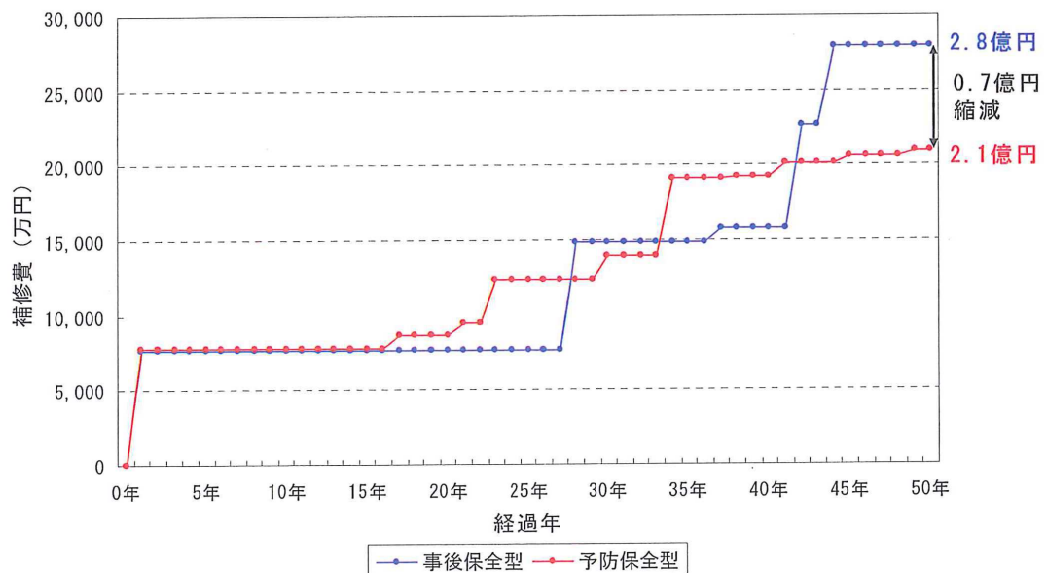
様式1-2による

6. 長寿命化修繕計画による効果

予防保全を基本とした長寿命化修繕計画の実施により、従来の事後保全的な管理と比較し50年間で約0.7億円のコスト縮減が見込めます。

- | | | |
|--------------|----------------------------|-------|
| 1) 事後保全型の事業費 | 50年間総費用 | 2.8億円 |
| 2) 予防保全型の事業費 | 50年間総費用 | 2.1億円 |
| 3) コスト縮減効果 | $2.8 - 2.1 = 0.7$ 億円のコスト縮減 | |

コスト比較のシミュレーション結果



7. 計画策定担当部署及び意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

長崎県 川棚町 建設課 tel 0956-82-3131

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

所 属	役 職	氏 名
長崎大学 工学部 社会開発工学科	教 授	岡林 隆敏
長崎大学 工学部 社会開発工学科	准教授	中村 聖三
長崎大学 工学部 社会開発工学科	准教授	奥松 俊博
長崎県 土木部 道路維持課	課 長	田崎 敏昭 (代理：村中 幸治)
長崎市 道路公園部 道路維持課	課 長	松田 秀造 (代理：古野 千里)
佐世保市 土木部 道路維持課	課 長	壹岐 健三
壱岐市 建設課	課 長	桝崎 文雄
雲仙市 道路河川課	課長補佐	岩永 英二
南島原市 建設部 建設課	課 長	松尾 澄秀 (代理；小林 道昭)
松浦市 建設課	課 長	村田 政司
五島市 建設課	課 長	富山 博彌
対馬市 管理課	課長補佐	草葉 利治
時津町 都市整備課	課 長	浜中 芳幸
長与町 管理課	課 長	日野 勉
川棚町 建設課	課 長	野口 常雄
新上五島町 土木課	課 長	石司 貴英

